

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達応援スペースジブドキ			
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～	2026年1月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～	2026年1月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2008年2月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との緊密な連携と情報共有	電話、連絡帳、LINE等を活用し、日々の様子を細やかに共有できる体制を整えている。	SNSなどを通し、事業所内の様子を写真や動画を用いて発信していきます。
2	子供が安心し、楽しめる居場所の提供	マンツーマン対応や環境設定を工夫し利用児童が自分のペースで過ごせるよう配慮している。 また、「次に何をするか」がわからない不安を解消するため、スケジュール表や活動内容を掲示し、子供が自ら次の行動を予測できる環境を整えています。	興味関心をさらに広げられるよう、個別の特性に合わせた新しいプログラムを導入していきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの不足	保護者の孤立感や悩みを解消するための座談会や保護者同士の交流を促進する仕組みが整っていない。	保護者同士の交流が図れる仕組みとして、相談会や交流会、座談会などを計画する。
2	きょうだい児や保護者同士の交流機会の欠如	支援対象の子供本人への直接支援が中心となり、家族全体のケア(交流会等)を促進する仕組みが整っていない。	休日を利用した「家族交流イベント」の開催や、保護者同士が悩み相談できる茶話会を計画する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		発達応援スペースシブドキ		公表日		2026年2月23日			
		利用児童数		6		回収数		6	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4				2 マンツーマンでの対応してくれている。	マンツーマンでの対応を取り入れるなど、支援の手厚さを意識した職員配置を行っており、現状は適切な体制であると考えています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6				事業所のトイレを利用しなかったが配慮していただき利用できるよくなった。	声かけや、環境への配慮を行い、お子さま一人ひとりのペースを大切にしながら対応しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6						
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6						
	8	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6						
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6						
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		1	1			
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2		2	2			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6				送迎時や連絡帳で日々の困りごとなどを共有できている。	送迎時や連絡帳を通じて、日々の様子や困りごとを分かりやすく共有し、ご家庭との連携を大切にしています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4		1	1			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		2	3			
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6						
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6				電話、連絡帳、LINEがあり、相談しやすい。	電話や連絡帳、LINEを通じて、正確で分かりやすい情報共有を心がけ、必要に応じて連絡手段を使い分けています。	
非 常 時 等 の 対 応	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6						
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6						
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6						
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6						
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6						

満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	6			自分らしく過ごせる居場所の一つとして認識している。	一人ひとりの気持ちや特性を尊重し、無理のない関わりを心がけています。自分らしく過ごせる居場所の一つとして感じてもらえるよう、安心できる環境づくりと、肯定的な声かけを大切にしています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	6			プログラムの予定を確認してくる。	その日のプログラム内容を事前に予定表にて、分かりやすく伝えていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6			大満足	一人ひとりにしっかり向き合い、その子らしさを大切にしたり関わりを心がけています。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	発達支援スペースジブドキ				公表日	2026年2月23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動内容に応じて机や配置を変更し、十分な動線を確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	7	1	利用児童が多い日は、職員配置を調整し、柔軟な人員配置を行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		トイレは車いすでも使用できる広さを確保し、指導訓練室の出入口も段差をなくしています。また、点字ブロックも設置しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日、清掃と定期的な消毒を行い、清潔な環境を保っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	こどもの特性やその時の状態に応じて、落ち着ける場所へ移動できる柔軟な支援体制を取っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		日々の支援や業務に直結した目標を職員間で共有するとともに、会議やミーティングの中で振り返りの時間を設け、職員が意見や気づきを発言できる機会を確保しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	保護者向け評価表(アンケート)を実施し、保護者等の意向や満足度、要望を把握するとともに業務改善につなげていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		定期的な会議やミーティングを通じて職員の意見や気づきを把握する機会を設け、職員から出た意見や提案を共有し、業務内容や支援方法の見直しに活用しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2		今後検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		職員の資質向上を目的として内部研修やオンライン研修等を受講できる機会を確保するとともに、法人内研修や事業所内研修を実施し、支援に必要な知識や技術を学ぶ場を設けています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		事業所内及び会社HPで公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		作成前に、現場職員を交えた会議を実施。各職員が現場で見た「こどもの強みや興味」を出し合い、多角的な視点を計画に反映させています。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	職員間で児童の行動などを共有し、個別支援計画に反映させています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		児童発達支援ガイドラインの5領域を網羅した計画のもと、保護者の意向をミーティングを通じて把握し、職員がチーム一丸となって目標に沿った支援を展開しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		スタッフが全員で活動内容を考え、リーダーが活動手順書を作成しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		曜日固定で利用されていますので、色々な事に経験・体験できるように配慮しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日の支援開始前に、その日の活動内容や各児の留意事項について職員間で打ち合わせを行っています。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	3	連絡帳にて支援の記録を残しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		支援の有効性を判断し見直せる体制を整えています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		送迎の機会を捉えて日々の活動の様子や細かな変化を園の先生方へ直接伝えていきます。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		こちらからも働きかけていけるような関係性を構築していくことが今後の課題だと捉えています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	3	地域の児童発達支援センターへ実際に足を運び、施設の視察や意見交換を行っています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	2		こちらからも働きかけていけるような関係性を構築していくことが今後の課題だと捉えています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	4	送迎時に利用時の様子を伝えるなど、保護者との共有を図っています。また、LINEを活用し、些細なことでも直ぐに相談できる体制を整えています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	契約時には必ず対面での面談を実施し、重要事項の説明だけでなく、ご家族の想いやお子様の特性を直接丁寧に伺う機会を設けています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2		保護者が交流できる場を設ける工夫が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	4	対面や電話に加え、日常的に利用しているLINEを相談窓口の一つとして機能させています。些細な困りごとでも「その瞬間に」発信できる環境を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		SNSを活用して日々の活動の様子を発信しています。文章だけでは伝わりにくい事業所の雰囲気や具体的な療育内容を写真や動画を届けることで、保護者が安心感を得られるよう工夫しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報は保管庫に入れ、厳重に管理している。また、SNS等での情報発信に際し、事前の同意取得を徹底するだけでなく、スタンプ加工やアングル等の工夫により、個人の特定を避けた細心の配慮を行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		事業所の行事に地域住民の方々を招待し、一緒に活動する機会設けています。子どもたちが地域の方と触れ合い、共に楽しむ経験を積み重ねることで、地域全体でお子様の成長を見守って貰える関係性を築いています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	実施している。また、活動の一環として、手洗い等も入れている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		避難訓練を特別な行事としてではなく、日々の活動の一環として組み込んでいます。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1	健康状態や緊急時の対応手順を直接細かく聞き取りを実施しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	安全計画を事業所内に掲示しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	送迎時や活動中の「ヒヤリ」とした事例を職員間で共有しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	年に数回の形式的な研修だけでなく、日々の終礼時に振り返りを行っています。また安全カメラを設置しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		身体拘束は「原則禁止」であることを前提としつつ、万が一、生命や安全を守るために緊急かつ、やむを得ない措置が必要となった場合の基準（切迫性・非代替性・一時性）について、研修を行っています。身体拘束を必要としない支援体制の更なる追求を継続します。	